

○処方適正化アプローチ事業

【これまでの取組】

協力医療機関等において、東大病院で実施している「持参薬評価テンプレートを用いたスクリーニング」を導入し、処方適正化アプローチを実施。

<平成30年度>

6つの協力医療機関(一般病床)に新規入院した65歳以上の患者を対象に実施。

<令和元年度>

入院期間が長い8つの協力医療機関(回復期リハビリテーション病棟又は地域包括ケア病棟)に新規入院した65歳以上の患者を対象に実施。

<令和3年度>

- ・上記医療機関で実施した持参薬評価テンプレートの事例から、優良事例の取りまとめを行い、医療機関向けの研修会などを通じて、周知啓発(10月31日開催、参加者計116名)
- ・常勤医師が配置されていない特別養護老人ホーム等から3つのモデル施設を選定し、東大病院のテンプレートを用いた処方適正化の優良事例収集事業を実施。

【令和4年度の取組】

病院におけるポリファーマシー対策に係る実態調査

≪調査目的≫

- ・処方適正化への認識や取組状況、ノウハウ等について実態を把握する。
- ・処方適正化に取り組んでいない施設が今後取り組むに当たっての課題を把握する。
- ・取組実施・未実施施設の比較分析を行うことにより、県の施策実施に向けての課題を明らかにする。



福岡県における取組②

○研修会の開催

指針の普及・浸透を図るため、医師、薬剤師、看護師等の多職種を対象とした研修会を開催し、処方適正化アプローチの取組事例等の講演を実施。

【これまでの取組】

＜令和元年度＞

9月6日開催、参加者223名

＜令和2年度＞

11月14日開催、参加者260名

＜令和3年度＞

11月27日開催、参加者265名

【令和4年度の取組】

これまでの研修会における参加者へのアンケート結果を踏まえ、以下の要素を満たすことができる研修会を開催。

- ・多職種が参加できる
- ・具体例を多く取り上げる
- ・様々な立場からみたポリファーマシーに対する考え方の共有

○患者啓発事業

医薬品の適正使用には患者とその家族の理解と協力、医療関係者からの丁寧な説明と情報提供が必要不可欠であるため、ポリファーマシーに関する啓発を実施。

【これまでの取組】

＜令和元年度＞

- ・お薬手帳及びポリファーマシーに関する啓発事業
薬剤師が、来局した65歳以上の男女に対し、服薬指導時等にお薬手帳及びポリファーマシーに関する質問をし、それに基づいた啓発活動を実施。

- ・啓発用チラシ、シール

一定数以上の医薬品を処方されている65歳以上の患者の来局時に、ポリファーマシーに関する説明を行うための啓発チラシ及びお薬手帳に貼付してもらうことで意識付けを行うシールを作成し、薬局へ配布。

＜令和2年度＞

- ・「薬と健康の週間」を中心に県薬剤師会がSNS等を通じて県民へ啓発。
- ・市町村の保健事業への支援として啓発チラシを提供。

＜令和3年度＞

「薬と健康の週間」を中心に県薬剤師会がSNS等を通じて県民へ啓発。

【令和4年度の取組】

「薬と健康の週間」を中心に県薬剤師会がSNS等を通じて県民へ啓発。



福岡県における今後の取組(案)

	令和3年度(2021年度)				令和4年度(2022年度)			
	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3
協議会	● 第1回			● 第2回		● 第1回		● 第2回
処方適正化アプローチ実施事業								
高齢者施設向け		施設選定	事業実施		取りまとめ	報告		
医療機関向け周知啓発			周知					
ポリファーマシー対策に係る実態調査(周知啓発を含む)					調査項目検討	調査実施周知啓発	結果分析	事業検討
ポリファーマシー研修会(多職種向け)			●				●	
啓発事業			● 啓発 「薬と健康の週間」				● 啓発 「薬と健康の週間」	
お薬手帳活用促進事業				解析				